

ライオン 小林健二郎取締役 『エコ・ファーストシンポジウム』で講演

ライオンの小林健二郎取締役上席執行役員は、10月31日に開催された「第3回エコ・ファーストシンポジウム」のメイン企画「SDGsにおける企業の先進的な取組事例とこれからの役割」にパネリストとして登壇し、ライオンの気候変動に対する取り組みとこれからの役割について解説した。



小林取締役

日本の部門別CO₂排出量の推移(2005年度と2016年度の比較)を見ると、産業部門が10・4%減、運輸部門が11・9%減、業務その他部門が1・2%減、エネルギー転換部門が4・9%減、工業プロセス部門が17・8%減、廃棄物部門が6・7%減と総じて減少している一方で、唯一、家庭部門が8・2%増と増加傾向になっている。

日本の各家庭では、ライオン製品が年間約20個使われていることから、ライオンでは環境配



小林取締役

慮型製品の開発に努めている。製品ライフサイクルにおけるCO₂の排出割合を見ていくと、原料調達20%、生産5%、物流1%、使用65%、廃棄9%と圧倒的に「製品の使用段階」での排出割合が大きく、この部分を見て

る、自宅から1時間以上離れた病院にしかないことがわかった。そこで、私は分野が異なる外科の救急外来に急いで向かった。刺されたから50分ほどようやく病院の診断を受ける

直していかない限り、家庭部門からのCO₂排出量を削減することは困難といえる。

そこで同社では、「無理やガマンをしなくてもエコになる」という考えの下、暮らすことがエコになる製品開発を進めており、同社を代表する衣料用洗剤「トップSUPER NANOX」は製品からのCO₂排出量を1990年比で53%削減している。

また最近では、毎月8日を歯ブラシ交換デーとすることで「健康寿命の延伸」を進め、ハブラシをプラスチック製品にリサイクルすることで「地球の持続可能性」を実現するなどの活動も併行して進めており、この活動

を、自宅から1時間以上離れた病院にしかないことがわかった。そこで、私は分野が異なる外科の救急外来に急いで向かった。刺されたから50分ほどようやく病院の診断を受ける

「虫や植物とふれあうコンテスト」 フマキラー 最終審査会開催

フマキラーは11月1日、フマキッズ子供研究所「第15回虫や植物とふれあうコンテスト」の最終審査会を開催し、応募総数1万1542件の中から一次審査を通過した3000点あまりの作品の中から、ゲスト審査員と

同社審査員がフマキラー大賞5作品とフマキッズ賞30作品を選定した。開会挨拶の中で大下「当たり前として受け入れもてぎ」でハローウッズ

明社長は「当コンテストは小学生の自由研究を応援し、自然とのふれあいを通じた知的好奇心や探究心の育成を目的に実施している。常識や疑問を

を通じて『健康に暮らす』ことが『エコ』につながることを企業の使命として取組んでいく。その上で『社会』を『エコ』にするという活動をエコ・ファースト企業や行政と一

「まずは、毎日の習慣をリ・デザインすること」で『健康に暮らすこと』

を覚えて。まるでコンビニに来た気分だった。実家の薬局では病状に応じて細かく説明するため、時間がかかると、サービスとして丁寧だ。そのため薬局もサビス業だと考えていた私には、少々寂しい感じ

スズメバチと薬局

今月初頭、不運にもスズメバチに刺された。帰宅後、干してあったジャージを着た際、ジャージの内側に潜んでいた蜂に刺された。刺された直後は痛みと蜂の羽音に驚いたが、すぐに応急処置をとった。

私のH & B日記

まず急いで、刺された。後に皮膚科で確認したところ、この対応で問題ないそう

け、後日、皮膚科で精密検査を受けるように、といわれた。翌日は病院に向かった。夜の救急外来には、ハチ刺されに対応できる皮膚科は少ない。私が問い合わせ

は、後日、皮膚科で精密検査を受けるように、といわれた。翌日は病院に向かった。夜の救急外来には、ハチ刺されに対応できる皮膚科は少ない。私が問い合わせ



夏休みシーズンには、栃木県の「ツインリンク」(白木倫奈さん、3年生)▽絵画部門「かぶと虫と3きょうだい」(宮崎悠斗さん、2年生)▽工作部門「26倍サイズ!血を吸う蚊の模型」(大宮夏奏さん、5年生)▽音楽部門「夏の終わりの虫」(伊藤悠叶さん、5年生)